

第4回青谷地域振興会議(研修視察)議事概要

兵庫県立考古博物館説明及び意見交換会議事概要

○大中遺跡公園について

【博物館より説明】

国の史跡になっているため、史跡内には駐車場が作れませんので博物館としては駐車場を持っていません。学校関係の見学が多ので、団体用貸切バス用の駐車場として、土地の借り上げをしています。一般の方は、播磨町営駐車場(有料)に駐車しています。

大中遺跡は、1962年に地元の中学生により土器が発見された事が発端となり、遺跡を守る地元の運動の後押しなどがあり、国の史跡として整備されました。周辺にはお墓や田んぼ等があったはずですが竪穴住居跡だけしか発見されていません。大中遺跡の展示は、播磨町立郷土資料館で行っています。兵庫県立考古博物館は、兵庫県の考古学全般を扱っています。大中遺跡は播磨町と兵庫県の二つの行政が絡む形となっています。

○兵庫県立考古学博物意見交換会

県立考古博物館職員より、博物館の現状等について説明をしていただきました。

【博物館より説明】(説明の概要)

博物館をオープンする時、入館目標人数を15万人としました。最初の7～8年間は目標人数を上回りましたが、ここ2～3年は入館者数が落ちている状況です。入館者は小学生が多く、4月下旬から6月上旬にかけて学校の校外学習として必ず見学にこられますので、見学をお断りしなければいけない時もあるほどです。悩みとしては一般の入場者が増えていない事です。入館者は、無料ゾーンでは、小学生が圧倒的に多く、有料ゾーンでは高齢の方あるいは考古学ファンが入館者が増えます。

県の施設なので地元の人との結びつきは弱いですが、兵庫県と地元の自治体播磨町との連携は非常に良好です。何より兵庫県立考古博物館の土地は播磨町所有ですし事業をする場合は共催で行っています。

博物館は、ボランティアで運営している部分が多く、ボランティアを養成しています。ボランティア養成講座を修了されたらボランティアとして登録をしてもらう流れとなっています。研修内容としては、展示の解説のほか、古代体験の補助をしてもらっているので一通りの古代体験をマスターしてもらっています。

ボランティア養成講座を修了された人は300人以上いますが、現在ボランティアとして登録されている方は60代、70代の人が多く、全員で113人です。世代交代がなかなか進んで行かないのが悩みです。ボランティアの人は播磨町のほか、神戸市・明石市・姫路市など播磨町近辺からも来られています。報酬はありませんが活動にあたってはボランティア保険をかけています。

【委員】ボランティアの募集の期間はどれくらいですか？

【博物館】おおよそ1か月位です。

【委員】募集案内はどのようにされていますか？

【博物館】チラシを作って、近隣の公民館や図書館に配架をお願いしたり、ホームページに掲載をしています。実際にボランティア養成講座に来られた人は、公民館チラシと知人の誘いが多いようです。遠くから来られた人もあります。大中遺跡だけでなく広く考古学を学んでいただき、他の施設でのボランティア活動も行っていた

だけたらと思っています。実際に自分の住んでいるところでボランティア活動をしている人もあります。

【委員】ボランティア養成講座のハードルが高いように感じますが、申込をされて途中でやめられるようなことはありませんか？

【博物館】研修日が日曜日で受講できないなどの理由から中にはやめられる人もあります。人材確保が難しいのが現状です。

【委員】ボランティアとして定着されている人はどれくらいですか？

【博物館】3分の1位の人が定着されています。当日になって突然お願いしても対応していただける人が20人位います。

【委員】ボランティア同士の横のつながりはありますか？

【博物館】ボランティアの親睦団体として、考古楽倶楽部があります。ボランティア登録されている113人の内、7～8割の方が団体に入って活動をされています。

【委員】大中遺跡の史跡があったから県立考古博物館ができたのですか？

【博物館】候補地は他にもありましたが、博物館を建てるための史跡以外の場所を確保でき場所を提供していただいたので播磨町に建設となりました。

【委員】入場者を増やすために、老人クラブなどへのアプローチをされていますか？

【博物館】アプローチはしていますが、実際に老人クラブの人は団体として来られるのは1度だけとなっています。興味のある方は、個人で来られます。

【委員】大中遺跡祭りはどんなまつりですか？

【博物館】大中遺跡祭りは、播磨町の一大イベントで、シャトルバス等の運行もあります。大中遺跡祭りでの古代体験は、播磨町は、広く一般に向けた古代体験コーナー実施し、県立博物館は、少し専門的な古代体験コーナーを実施します。

【委員】何人くらい来場者がありますか？

【博物館】表は播磨町人口と同じ位で35000人と公表されています。

【委員】公園の管理について、清掃等に地元の人がボランティア協力されていますか？

【博物館】公園管理について、ボランティアの依頼はしていません。作業中の事故等のリスクを考え、業者に委託して管理しています。

【委員】体験メニューでは何が一番人気ですか？

【博物館】勾玉づくりです。材料費はかかりますが、作った後に持ち帰ることが出来ます。体験などの新しいメニューを開発するのが課題だと感じています。今年から他の博物館と一緒にメニューを考えるなど情報交換を始めました。

【委員】広く一般県民からアイデアなどを募集されていますか？

【博物館】まだ、募集などをしたことはありませんが、取り組んでみたらいいかもしれません。

【委員】シンボルマークについては公募されたのですか？

【博物館】シンボルマークは公募していません。デザイナーにコンセプトを伝え作成してもらいました。